

宮沢賢治といえば、どんな作品が浮かびますか？

小学校の教科書に出てくる『やまなし』、アニメ映画化もされた『銀河鉄道の夜』、詩で有名な『アメニモマケズ』など、誰もが1度は宮沢賢治の作品を読んだことがあるのではないのでしょうか？では、宮沢賢治という人は、一体、どんな人だったのでしょうか・・・。

彼を語る上で重要なワードと共に、それにまつわる本を紹介します。

賢治と「石」

自然豊かな岩手で育った賢治は、幼い頃から「石」が大好きで、「石っこ賢さん」と呼ばれるほどでした。

その後、農林学校に入学し、岩石や鉱物の研究をします。

賢治の作品の中にもたくさんの鉱物が登場します。

作品の中にどんな鉱物が出てくるでしょう？そんな読み方も楽しいと思います。

『宮沢賢治の地学教室』
柴山元彦／著 創元社



賢治と「童話」

妹トシにすすめられて童話を書き始めた賢治。さまざまな仕事をしてきた賢治が、最後にたどり着いたのが童話作家の仕事でした。

しかし、作品が世に認められたのは、賢治が亡くなった後のことでした。

岩手の自然の中で育ち、自然を愛した賢治の壮大な想像力が、数々の作品を生み出しました。

『銀河鉄道の夜』

宮沢賢治／著 岩波書店



賢治の「恋」

賢治は生涯独身でした。

しかし、恋人への想いを詩にこめた作品が多くあります。

「愛」という違った角度から賢治の詩を読み解くのも面白いのではないのでしょうか。

『宮澤賢治の愛のうた』

澤口たまみ／著 夕書房



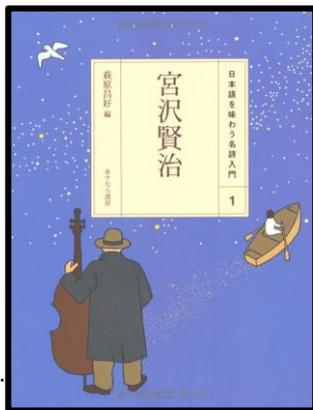
賢治と「妹・トシ」

賢治には、2歳はなれた妹のトシがいました。『春と修羅』という詩集に収められた

『永訣の朝』という詩は、妹のトシが亡くなる日の朝の様子を書いた詩です。

賢治の良き理解者でもあったトシは、賢治に童話を書くことをすすめました。そこから、童話作家の道がはじまったのです。

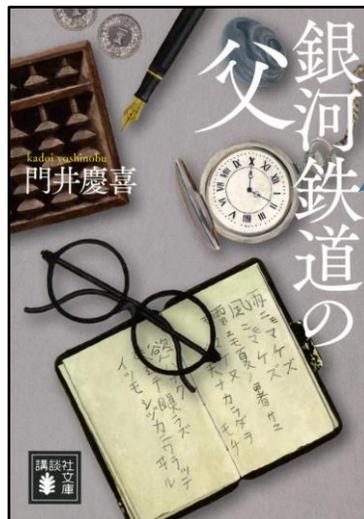
『日本語を味わう名詩入門 1 宮沢賢治』
宮沢賢治／著 萩原昌好／編
あすなろ書房



宮沢賢治を知る。

『銀河鉄道の父』

門井慶喜 講談社



直木賞を受賞した小説が、映画化されました！



賢治と「病」

37歳という若さで亡くなった賢治は、子どもの頃から病との闘いでした。

人生の後半は、病床上で執筆活動をし、あの『アメニモマケズ』もその時に書かれました。

『アメニモマケズ』の詩にあるような強く、たくましい人物でありたかったと願う思いが、この詩にあふれていると、言われています。



宮沢 賢治

「あらすじ」

宮沢賢治の父・政次郎から見た賢治の生涯を描いた作品です。

多くの素晴らしい作品を遺した賢治ですが、必ずしも完璧な人間であったわけではなく、長所も短所も併せ持つ、人間味あふれる人物でした。

そのような波乱万丈に満ちた賢治の人生に、常に寄り添い、究極の愛情を注ぎ続けた政次郎と賢治の親子愛の物語です。